

The 9th International Student Start-Up Conference 参加報告レポート

H.C.さん

はじめに

私は2023年10月29日~2023年11月2日の5日間、韓国の釜山にてThe 9th International Students' Start-up Conference(以下・カンファレンス)に参加した。参加した理由は、釜山という異国の地で世界各国の学生と触れ合い、視野を広げたいと考えたからである。本レポートではカンファレンスに参加した前後で、自身の考えにどのような変化が生じたか、どのような学びを得られたかについて言述する。まず、カンファレンスにおけるディスカッションやプレゼンテーションについて述べる。つぎに、釜山のスタートアップ企業について述べる。最後に他国の学生と交流し、文化に触れて考えたことについて述べる。

1. カンファレンスにおけるディスカッション・プレゼンテーション

カンファレンスでは、いくつかのグループに分かれ議論を行い、最終的にグループで意見をまとめ、プレゼンテーションという形で発表した。私の所属したグループのテーマは、「Customer Satisfaction, Diversity(顧客満足度と多様性)」だった。そこで、多様性という部分で食物アレルギーに焦点を当て、カメラ機能を使い一目でアレルギー情報が分かるスマートフォンのアプリケーションを開発するという提案をした。その結果、世界的な問題に革新的な視点をもったことが評価され「Global Innovation Award」という賞を頂いた。

上記のようなカンファレンスにおいて私が感じたのは、他国の学生における自国への理解の深さだった。私は事前に与えられたテーマについて調べてディスカッションに備えるという対策をしていたのだが、他国の人たちは事前に下調べをせずとも自国の課題や現状を理解しており、多様なアイデアを出していた。また、その理解の深さから情報や意見の取捨選択も素早く行っており、議論がスムーズに進んでいた。このことから、私は日頃から自国・他国の情勢や現状を周知しておくことの重要性に気づいた。そのために、スマートフォンのアプリでニュースをチェックする、新聞を読む、テレビのニュース番組を見る等の手段で情報を得るようにしたいと考えた。さらに、学生のプレゼンテーションからも学びを得ることが出来た。それぞれのプレゼンテーションを通じて共通していたのは、スライドに載せる情報が非常に簡潔で、ほぼスライドに頼らずにプレゼンテーションを行っているということだった。その背景にはプレゼンターの方の姿勢・態度、そしてディスカッション中のメモの取り方が紐付けられていると考えた。他国の学生の発表は身振り手振りが大きく、アイコンタクトをしっかりと取るようにしている。このような堂々とした態度であるからこそ、日本と比べて情報が頭に入りやすいように感じ取れた。また、ディス

カッション中も私は細かくメモをとっていたが他国の学生は必要なキーワードだけを並べ、後は口頭で意見を整理し、まとめているような姿勢を取っていた。このようなことから、発言することが日本と比べて他国は重要視されているのだと考えた。私はこれまで、何事も文字にして記録することが重要だと考えていたが、これからは口に出して情報や物事を整理していくようにしたい。

2. 釜山のスタートアップ企業

11月1日には、釜山のスタートアップ企業である「E-COMMERCE BUSINNES CENTER」「메이커스페이스 만들금」の二社を見学した。双方ともシェアオフィス・ワーキングスペースのようになっており、申請した様々な企業や釜山の市民など多様な人々が使える空間になっている。新事業の開発・発展において非常に貢献している働きやすい環境作りを徹底しているといった印象が見受けられた。

日本でのシェアオフィスについて市川(2019、p1)は「会員間のコミュニティ形成をあまり前面に打ち出しておらず、テレワークによる働き方改革に伴う需要を見込んだ動きであることがうかがえる」と述べている。しかし、今回見学した二社は交流やコミュニティといった点を重視して市場を広げていることから、多様な人々・会社が同じスペースで仕事をし、コミュニケーションを取れることの意義を感じた。また、3Dプリンターなどの様々な先端技術を取りそろえている且つ、人と人との繋がりを大切にしている空間という点からは、人と将来が共存して社会を作ってゆくうえで良いバランスが取れていると考えた。

3. 他国の学生との交流、異文化交流を通して

今回参加したプログラムではカンファレンスの他、食事の機会などで様々な国の学生と交流し、異文化について知ることができた。初対面でのコミュニケーションの仕方、SNSの使い方、考え方の違いなどから様々な刺激を受けた。

まず印象的だったのは、他国の学生が非常にフレンドリーに関わってくれたことである。特に、初対面でのコミュニケーションは口頭の挨拶の他に、握手やハグ等で受け入れてくれたことでアイスブレイクの多様さを感じ取れた。さらに、日本の学生と比べて、非言語コミュニケーションである表情や動作も豊かで、このようなことも一章で述べたようなプレゼンテーションの姿勢と繋がっているように感じた。また、他国の学生はどの場面においても社交性が豊かな印象を強く受けた。私自身、初対面の人とは徐々に心理的距離を詰めてゆくという考えをしていたため、他の学生の社交性の高さを見習うべきだと考えた。コミュニケーションはSNSの面からも必然性の違いを感じ取った。私はこれまでSNSを使用するか否かは個人の自由であり、使用していなくても構わないというような考

えをもっていたが、海外では SNS を使用するのほぼ当たり前のように、特に Instagram が主流のようだった。どの学生も最初に連絡手段として尋ねられるのは Instagram で、世界中で使われていることを改めて実感した。また、Instagram が今後の主なコミュニケーションツールとなるのではないかと考えた。

おわりに

釜山で過ごした五日間で、私は他国の学生の言動や思考、文化、企業の違いから多くの刺激を受け、自身の意識が変化し、有意義な時間を過ごすことができた。このようなことから、今後も本学の学生には是非参加して欲しいプログラムであると考えた。上記をふまえ、来年度以降のカンファレンスの参加の実現が可能であれば、補助やサポートはどのようなものが必要か、どのような学生に参加して欲しいかを述べ、末尾とする。

まず補助やサポートについて、今後もあるとよいものを四点述べる。一点目は、金銭面の補助だ。どの学生も参加できるという面を踏まえると、金銭面的補助は必要であると考えた。また、参加費が 10 万円以上になる場合は分割払いか一括払いを選べるシステムが必要であると考えた。二点目は、海外渡航における学外留学生トータルサポートサービスや、海外留学生/研修生向け危機管理マニュアルなど国際化のサポートや事前講習会だ。特に私は、今回が初めての海外渡航・滞在だったため、このサポートで多大な安心感を得ることができ、現地で快適な生活を送ることに繋がった。三点目は、健康管理面についての支援やサポートだ。今回は何事もなく五日間過ごすことが出来たが、慣れない環境によって途中、体調を崩してしまった学生もいたため、健康面のサポートや、事前の健康管理などは大学側からもサポートがあれば良いと感じた。四点目は、事前学習だ。今回カンファレンスに参加して、英語のコミュニケーションや現地のマナー・文化について事前に知っておけば良かったと感じた点はいくつもあったため、必修授業を設けることや何回かの講習は必要であるように考えた。

つぎに、今後参加して欲しい学生像について述べる。なお、以下の学生について、学部学科は問わないものとする。一点目は社交性のある学生だ。このプログラムでは様々な国の学生が集まり、自由にコミュニケーションを取る場面がいくつもある。その際に、コミュニケーションを取り、日本以外の学生と交流を深めるということはプログラムに参加するうえでカンファレンスと同等に非常に重要だと考えた。二点目は、非言語コミュニケーションを大切にしている学生だ。私は今回、英語で伝わりにくい日本の言葉や聞き取れなかった時などはジェスチャーなどでコミュニケーションを取るように心がけた。また、先述 (1.) のように他国の学生は態度やジェスチャーを重視する傾向がある。そのため、言葉でのコミュニケーション以上に非言語コミュニケーションは大事ではないかと考えた。三点目は、明確な目的をもっている学生だ。このプログラムは現地の人とだけ関わるのではなく、様々な国の学生と異国の地で関わることになる。どうして他の留学制度ではなく

スタートアップカンファレンスに参加するのか、カンファレンスを通して自分はどのように変わりたいのか、何を知りたいのかなど自分の考えをしっかりと持っている学生に参加して欲しいと感じた。

私は今回得ることのできた学びの数々を今後も後輩達に味わってほしいと願っている。今回の参加に引き続き、来年度以降も本学の学生がカンファレンスへ参加することが可能であれば、それは個人の成長だけでなく、大学全体への発展にも繋がるのではないかと考えた。また、学んだことを内に閉じ込めておくのではなく、このような報告レポートや学内プレゼンテーションなどを通して伝え、今後も共有してゆきたいとも考えた。以上、本レポートでは The 9th International Students' Start-up Conference の参加を通して得られたことや自身の変化について述べた。

参考文献

市川拓也(2019)「拡大するシェアオフィス市場と働き方改革～企業にメリット、政府の政